

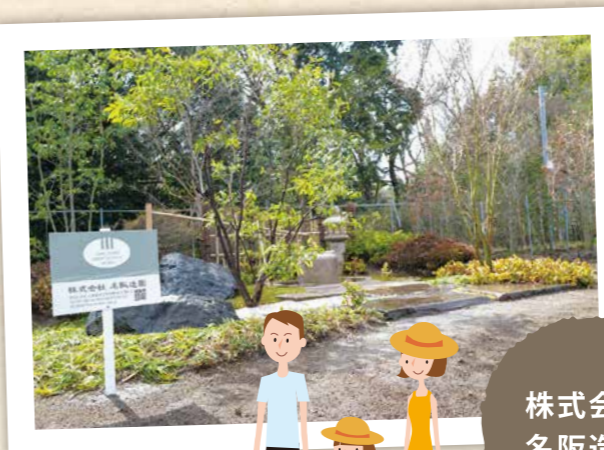
Green & Smile さんぽ道



カネイチ



庭なかやま



株式会社
名阪造園



リバース
ランドスケープ
デザイン



尾張で
お庭展



284.



吉原造園



株式会社
清栄園



株式会社
沖植物園



株式会社
亀山造園



↑
入口

お庭の体験展示場 Green&Smile さんぽ道

〒519-0315 三重県鈴鹿市山本町字古池沢 151-9
●営業時間：9:00～16:00 ●入場料：無料
お問い合わせ：059-371-0610（沖植物園）

（株）沖植物園 **オンライン商談会** 行っています
〒519-0315 三重県鈴鹿市山本町 210-9
<http://www.mecha.ne.jp/~okisyoku/sub4.html>





日本初！造園業者が手き組み、「お庭の体験展示場」が鈴鹿にオープン！

住宅展示場は数あれど、庭園展示場はいまだ見たことがない。造園業者がスクラムを組んで、新たな試みがスタートする。お家時間の充実が見直される今こそ、庭のあり方も考えてみて欲しい。一本の木が庭にあることで得られる暮らしの豊かさを伝え、一本の木を植えることから環境意識を変えていきたい。そこから個々のSDGsにもつながっていくように。そんな「お庭の体験展示場・Green&Smileさんぽ道」の立ち上がりについて、株式会社沖植物園の代表取締役・沖俊直氏に話を聞いた。

まずは沖植物園についてお聞かせください。

沖俊直社長（以下沖） 父が鈴鹿市で1985年に創業し、1993年に法人化しました。もともとこの辺りではお茶や野菜を育てる農家さんが多く、父もそのうちの一人でした。それが野菜よりも植木の需要が増えていくという話を聞いて、友人たちと3人で植木屋を始めたところ、高度経済成長に伴う緑化ブームと重なって、とても繁盛したそうです。公園やゴルフ場などがたくさんできていく中、右肩上がりして仕事が増えてきたことから、独立して沖植物園を創業することになりました。

鈴鹿市はもとも植木の産地だったのですか。

沖 昔から「四大植木産地」と言えば、埼玉の安行・愛知の稲沢・大阪の細河・福岡の田主丸のことで、鈴鹿は戦後になって成長した産地です。というのも、戦後の公共緑化でよく使われるようになったサツキの産地だったからです。サツキは丈夫な低木で、落葉もせずに花付きが良い。それでいて安価という条件が揃っており、公共緑化に適した植木だったわけです。今でも道路脇でよく目にすると思います。が、排気ガスにも負けずに春にはピンクの花を咲かせてくれます。サツキが全国に広まったことで鈴鹿の名が知られるようになり、現在も全国のサツキの半分以上を出荷する最大のサツキ産地となっています。

植木はどのようにして流通しているのでしょうか。

沖 沖植物園は、生産者ではなく卸業者です。生産者の方から植木を仕入れて、地元で造園業者さんや、都市部の卸業者さんに卸しています。関東をはじめ緑化工事が多い都市部の卸業者さんは、我々

のような産地問屋から仕入れることになりました。

産地問屋によっては扱う植木の品種を限定しているところも多いですが、サツキと合わせて他の注文も入るようになったことから、弊社では様々なニーズに応えられるように取り扱った樹種を増やしてきました。また事務所の裏には出荷場を兼ねた仮植場を作り、規格だけでは判断できない枝物や段物などは、現物の形を見て発注できるようにしています。お客様が欲しいと言われたものは全てここで揃うように、全国各地に繋がりを作って、いろんな木を集めてきました。さらに、お客様の流通コストを削減するために、「関東便」という関東エリアへの一括配達サービスを他社に先駆けてスタートしました。今では当たり前ですが、25年前に始めた頃には、本当に10本でも持つてきてくれるの？」と驚かれたものです。要るものを欲しい分だけ注文できることから、多くの業者さんにご利用いただくようになりました。

新しいことに果敢にチャレンジしていく企業風土はこの頃からあったのですか。今回も業界では新しい試みとなりますが、きっかけは何だったのでしょうか。

沖 父がやっていた頃は好調だったものの、経済成長に伴う公共工事がひと段落すると、新しく造成するものがなくなり、20年前から売上は徐々に減っていきました。この10年では急激に落ちたような気がしますが、昨年の過度な落ち込みも、コロナの影響だったらまだ良いのですが、このまま下り続けていくと思うと不安になりました。いずれにしてもこのままでは状況は変わらないので、時代に合った新しい植木の提案ができないのか、父と話している中で、「植木をただ並べるだけでなく、庭になったイメージを見せたらどうか。家を建

てる時に見に行ける住宅展示場はあるけれど、庭を作りたいたい時に見られる庭園展示場はないよね」という話になりました。そこで、造園屋さんの中でも懇意にしている「24（庭師）」の仲さんに相談したところ、「住宅展示場にも庭はあるけれど本格的なものではないから、ちゃんと見せられる庭を作るというのはいいいね。それに、一つの造園業者が展示場を作ることはあっても、複数の業者のいろんな庭が見られる展示場はまずないから、みんなに声をかけて作り上げたら面白くなると思う」と言ってくれ、仲間の造園業者の方たちにも声をかけてくれたんです。

「Green&Smileさんぽ道」では様々なイベントも企画していく予定です。

沖 はい。この展示場に参加いただく造園屋さんたち「Green&Smile Club」というのを立ち上げ、お客様に造園の魅力を伝えられるような、また季節の庭を体験体感できるようなイベントを企画していきます。お客様をイベントに巻き込みながら一緒に楽しむことで、お客様たちがClubのサポートになってもらえることが理想です。この「Green&Smile Club」の活動によって、一本の木が庭にあることで得られる豊かさを感じてもらいたいし、一本の木を植えることから環境意識を高めていけるような、その第一歩にしていきたいと思っています。そうした個々の意識が、DGSにもつながっていくように思います。そして、我々の想いに賛同してくれる他の造園業者さんたちにも、どんどんこの「Green&Smile Club」に参加していただき、一緒に展示場を盛り上げていきたいです。

まさに、「緑のチカラで笑顔をつくる」という想いをカタチにしたわけですね。これからの時代にこそ必要な場所だと思います。

沖 今の時代にも家はそれなりに建っているけれど、その中で造園は必要とされているのか。そんな造園業者さんの不安な声を耳にします。けれど、コロナによって見直されたお家時間の充実や豊かさの延長線、庭という空間に目を向ける人たちは必ずいるし、アウトドアと同じ感覚で今後は庭で過ごす時間も増えていくように思います。それが庭を見



直すきっかけになって欲しいです。ふらりとここに立ち寄った人にも「庭っていいな」と思ってもらいたいし、次に来た時には「どんな木を植えたいのかな」と思いを巡らしながら散歩したり、そんな中で人と人がつながっていく場所にしていきたいです。

人がつながっていく場所として今後の展望があれば教えてください。

沖 現在も年に一度、県内の学童保育所で小さなお子さんたちに「緑育」として、お花の寄せ植え体験や、環境のお話をさせてもらっています。この「さんぽ道」は子供たちだけでなく家族と一緒に、なって緑に親しめる緑育の場にしていきたいです。自然に触れながらいろんな人との関わりもできていくことが理想です。また、「Green&Smile Club」では造園業者の横のつながりを広げていくとともに、そんな庭の専門家が農業高校と交流することで縦のつながりも作っていきたくです。生徒さんたちが庭づくりを体験したりプロの話を聞く中で、庭師をめざしたいという若者が増え、それを応援できる場でありたいと思っています。それが、緑あふれる鈴鹿市の街づくりにもつながっていくのだと思います。

